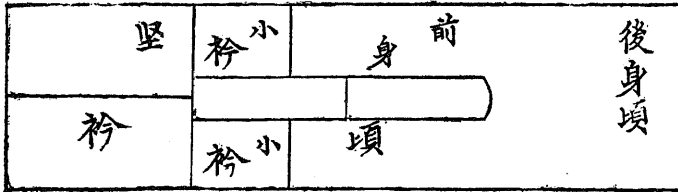
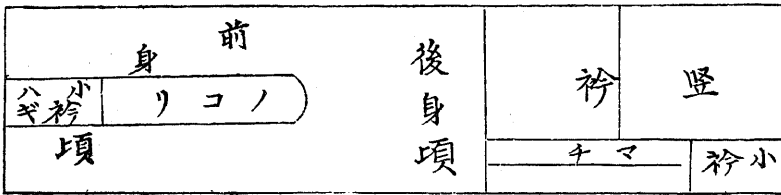


方 ち 裁



堅衿丈 たてえりたけ 一尺三寸四分
 小衿丈 こえりたけ 六寸五分
 衿肩 えりかた 一寸一分
 前身丈 まへみたけ 一尺六寸四分
 後身丈 うしろみたけ 一尺五寸七分
 用布 もちぶ 五尺二寸
 (一尺幅) (しやくはた)

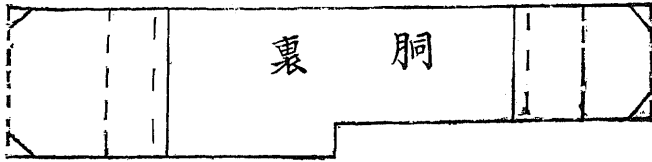
一つ身袖無被布



衿肩 えりかた 一寸一分
 前身丈 まへみたけ 二尺二寸
 後身丈 うしろみたけ 二尺
 小衿丈 こえりたけ 六寸五分
 堅衿幅 たてえりたけ 六寸五分
 衿丈 えりたけ 一尺四寸
 用布 もちぶ 七尺
 (一尺幅) (しやくはた)

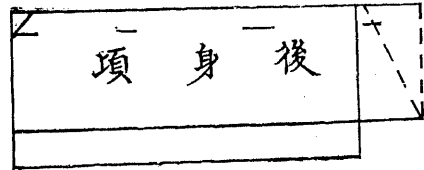
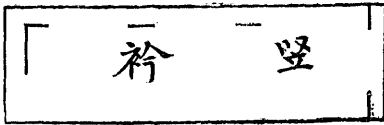
岡本ちか

普通仕立上寸法 ふつうしなてあゆみせんぽう
 身丈 みたけ 一尺五寸
 身幅 みばた 一尺五寸
 脇明 わきあき 六寸
 前下り まへさがり 三分
 襷幅 たすきはた 上二寸 下四寸五分
 堅衿下 たてえりさがり 三寸
 堅衿幅 たてえりたけ 下三寸 上三寸ツメル
 小衿丈幅共 こえりたけばさひとも 一尺五寸
 (内二分廻ス)



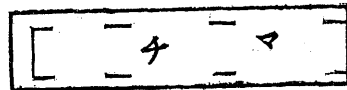
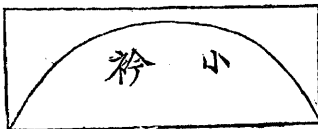
縫標附け方

表裏とも
表を中
にして二
つに折
り、表
身頃の
上に裏
身頃を
載せて
、圖の
如く胸
の標を
なす。



若し裏の附く時ならば
裏を縫ひつけ置き、幅
を二つに折り折目を手
前にして、丈、幅など
の標をなす。

後身頃を前身頃の上に
山より二つに折り、圖
の如く脇明、前下り幅
などの標をなす。



丈を二つに折り幅丈及
び丸みなどの標をなす

表裏の襷をはぎ合せ、
表を中に二つに折り、
丈及び上下の幅標をな
す

縫ひ方

第一、身頃の胴はぎして、折は裏の方に返し縫

第二、前下りを表は標の處、裏は標より一分五厘縫込みて、折は裏に返し隠

第三、前後の襷をつけ、折は身頃に返します。

第四、多き方は前襷になりませす

第五、協明の山の處を、表は標より一分外、裏は標より一分内に折をつけ、表裏を合せて縫ひ、折は裏に返して縫

第六、綿入

第七、裾假綴、協明綴

第八、前襷、堅衿綴

第九、堅衿と、小衿との間を紵け、次に堅衿紵

第十、小衿縫、縫標を表は其所、裏は標より一分内を縫ひ、丸みに綾を取り、心を其形に合せて切り綴ち附けます

第十一、小衿附、裏身頃に小衿の表を稍弛めに針を指し、一針抜につけ、折は衿の方に返し裏を表より真中の處にて二三分幅をつめて、小さく紵けます

第十二、飾紐

第十二、飾紐(通常八尺位にて結びませす)

佛國の結婚法改良意見

佛國にては結婚及び離婚の便を謀らん爲めヘンリー、クワロン氏會頭となりモリス、マーテルリング氏等委員となり結婚改良の意見を汎く世に徴し改良の實を擧ぐる事に決したるが委員等の主なる意見は結婚せんとする者は最も容易に結婚し離婚せんとする者も亦容易に離婚し得る事とし且つ結婚したる爲め婦人が若干の權を失ふ事なく全然同權者たらしめ姦通を罰せざる方針なりとそ是れ姦通を罰するは實に一種の復讐に外ならずと云ふにありとか進歩か退歩か一寸判じかねる次第なり。